

### 遊佐町沿岸地への洋上風力発電の導入に向けた取り組みについて

一般質問

#### 石黒党・議員／質問●

平成30年7月に政府は、再生可能エネルギーを、初めて「主力電源化」と目指す方針の第5次エネルギー基本計画を閣議決定しました。なかでも洋上風力発電は、世界的にもコストの低減と導入拡大が急速に進んでおり、我が国においても、「洋上風力発電の導入拡大は不可欠」と計画に明記されています。

さらに、平成30年の第197回臨時国会において、「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律」（略称：再エネ海域利用法）が11月30日（金）に衆参全会一致で可決成立し、12月7日（金）に公布され本格的に、洋上風力発電の導入を進めていく姿勢が示されました。

こうしたなか、東北地方の日本

海側は、風況をはじめ洋上風力発電の条件に恵まれており、県の庄内沿岸海域も高いポテンシャルを有していることから、多くの風力発電事業者が高い関心を示していると聞いています。

私は、洋上風力発電の導入には何よりも漁業者や地元住民の理解を得ることが極めて重要であり、さらに生態系や景観などの環境との調和が十分に図られる必要があると考えます。

県は平成30年7月に「山形県地域協調型洋上風力発電研究・検討会議」を立ち上げ、県沿岸域における地域や環境と協調した洋上風力発電の導入に向けて、研究・検討に着手したと承知しています。洋上風力発電の導入に向けた県のこれまでの取り組み状況と、今後の進め方について伺います。

#### 環境エネルギー部長／回答●

エネルギー政策推進プログラムでは、風力発電の導入促進を重点的に取り組むこととし、特に洋上風力発電は、庄内沖での洋上風力発電の導入の可能性を研究、実施します。

このため、県では平成30年7月に、「山形県地域協調型洋上風力発電研究・検討会議」を設置し、遊佐町の沿岸域を想定して、地域と協調した洋上風力発電の導入に向けた研究・検討を進めました。具体的には、洋上風力発電の導入により生じることが懸念される騒音や、漁業や鳥類などに対する影響、地域へのメリットなどについて、最新の知見の収集や現地調査を行なうとともに、景観についてはフォトモニターを作成するなどして、課題などの検証を進めながら一定の整理を行ないました。また、研究・検討会議のメンバーで長崎県五島市を訪問し、洋上風力発

電と漁業や地域が協調した先進の取り組みをお聞きしながら、県における取り組みの考え方を共有しました。さらに、県として遊佐町と連携しながら、町内全6地区の住民や漁業者に対して、検討状況などを説明し、膝を交えて意見交換を行なうなど、地元住民や漁業者の理解促進に取り組まれました。

こうした一連の取り組みを通して、関係者からは、洋上風力発電の導入に向けて前向きに検討を進めていくことに一定の理解が得られたところで、平成31年2月18日に開催した研究・検討会議では、現在政府が検討を進めている再エネ海域利用法の具体的な運用に関する情報を収集しながら、洋上風力発電と漁業の協調などの課題について議論を深化させ、令和元年度にも法律に基づく協議会の設置ができるよう準備を進めていくことが了承されました。

県は、引き続き、漁業者をはじめ地域の関係者へのさらなる理解促進を図りながら、丁寧にか

つスピード感をもって、遊佐町沿岸域への洋上風力発電の導入検討を進めます。

### 生きがいや健康づくりを含めた地域包括ケアシステムを支える地域活動について

一般質問

#### 石黒党・議員／質問●

酒田市山寺地区（旧松山町）の「山寺長寿会」が、「山寺健康おでかけ隊」という事業を実施しています。運営要綱に「高齢者が誰でも健康で安心な生活を望まれることは当然のこと。（中略）自分たちでできる範囲の活動を通して、お互いを支えあい、引きこもりなどを防止し健康維持を図ることを目的とする」とあります。まさに県が掲げる「地域包括ケアシステム」の一丁目一番地であると、私は感激しました。

この事業は、比較的若い高齢者が運転手となり、支援者1人と3人の会員を自家用車に乗せて、買い物やカフェ、食堂などで食事

をしながら楽しくおしゃべりをする、まさに高齢者の皆様から大いに外に出てもらいましょうという取り組みです。この事業において参加料を徴収し、傷害保険金負担やガソリン代、数百円の謝礼を支払うことに問題はないのかと、指摘を受けたと聞きました。高齢者が知恵を出し合い、高齢化社会を自ら希望あふれるものとして動き始めた事業が、決まり事によって実施できなくなるのではと心配です。利用された方々の声は、「外出の喜びを味わうことができた」「実施するなら、ある程度の負担をしても是非参加したい」など、全ての意見が高評価です。「地域包括ケアシステム」を支

える取り組みをしている組織では、どのような状況なのか。また、老人クラブの存続が厳しくなっている状況があります。老人クラブは「地域包括ケアシステム」を支える重要な担い手と考えます。県は今後、どのように対応しますか。

#### 健康福祉部長／回答●

「地域包括ケアシステム」では、医療や介護に加え、生きがいや健康づくりを含めた介護予防と生活支援も重要な要素です。

県は、いきいき百歳体操などの介護予防の活動に取り組む「通いの場」を、平成31年2月現在で、600カ所以上開設。また、外出支援や家事援助などの生活支援は、高齢の単身世帯や夫婦のみの世帯の増加により、必要性が高まっています。県は、地域の助け合いによる高齢者の生活支援サービスの活動拠点として、「福祉型小さな拠点」を約50カ所設置しました。これらの取り組みは、高齢者を中心とする住民が主体

となって進められており、今後も高齢者にはサービスの受け手としてのみならず、元気な方がその担い手として活躍いただける環境整備が重要となります。

県では、高齢者に「通いの場」などの地域活動に関わっていただけるよう、組織の担い手となる人材を養成する研修を実施しています。実際に「通いの場」の運営に対する市町村の支援制度などを活用しながら、新たな組織を立ち上げた事例もあります。

また老人クラブは、高齢者を取り巻く環境の変化により、会員数が年々減少していますが、「地域包括ケアシステム」の一翼を担う重要な組織です。県は、クラブの活動に対する助成などに加え、支援制度の活用も促し、助け合いによる高齢者の生活支援サービスの活動拠点として、「福祉型小さな拠点」を約50カ所設置しました。これらの取り組みは、高齢者を中心とする住民が主体

### 石黒さとる 活動日誌



平成30年11月3日（土）

#### 大浜地区OB会主催の酒田港クリーン作戦に参加（酒田市）

ポツポツと雨が降ってきましたが、清掃活動を続けました。風で飛ばされたビニールやタンなどが散乱していました。



平成30年11月8日（木）

#### 第21回全国農業担い手サミット in やまがたに参加（山形市）

「咲かせよう農の花！実らせよう豊かな日本！～樹氷のように輝き、たくましい未来へ～」をテーマに約2,100人が参加。



平成30年11月20日（火）

#### 八幡地区荒瀬川の豪雨災害復旧工事現地調査（酒田市）

後藤泉酒田市議とともに、荒瀬川の豪雨災害復旧工事の状況を確認。急速に復旧工事が進まない現状がありました。



平成30年12月28日（金）

#### 県政クラブ 県外現地調査（仙台市）

「社会福祉法人仙台キリスト教育院」を訪問。社会が子どもを育てるという考え方が、日本は脆弱であることを再認識。

#### 子どもたちに我が郷土、庄内地域の未来を引き継ぐために



平成31年2月11日（月）

#### 郡鏡・山谷コミュニティセンター文化祭に参加（酒田市）

米俵の蓋「せんべし」などが展示されていて、薫文化をしっかりと伝承されている文化祭でした。とても懐かしく感じました。



平成31年2月11日（月）

#### 山元地区旧阿部家の小正月行事に参加（酒田市）

子どもたちと、五穀豊穡を願う「なし団子づくり」「雪中田植え」、昔ながらの「そり遊び」などの伝統行事に参加しました。



平成31年2月19日（火）

#### 議長と副議長に特別委員会の政策提言を報告（山形市）

「未来を担う人材育成対策」「県土強韧化・安全安心対策」「産業振興対策・働き方改革」の各特別委員会の提言を報告。



平成31年2月26日（火）

#### 県議会2月定例会、恒例の「着物議会」に参加（山形市）

地域経済発展に貢献してきた織物業界の振興と活性化のために始まった行事。今年は、10人の県議会議員が参加。

若者の県内定着と産業の振興に関連する主な令和元年度当初予算  
庄内総合支庁総務課●庄内若者定着促進事業（県内私立専修学校などの学生に対する帰省に要した交通費の一部補助）……131.8万円  
商工労働部●地域若者人材確保対策事業（高校生と地元企業との交流会の開催、学校長と行政との意見交換会の開催、庄内就職説明会の開催など）……131.7万円  
農林水産部●試験調査船「最上丸」の新船建造と漁業成長産業化推進（試験調査船新造、漁業成長産業化推進事業、漁業成長産業化に向けた主要な研究課題など）……10億7,798.1万円  
農林水産部●地域圏芸産地技術開発・支援事業（花き産地強化、ネットメロンの土壌病害対策、シャインマスカット高品質安定栽培技術の実証）……226.6万円  
庄内総合支庁森林整備課●自伐林材による木質バイオマス活用事業費（林地残材などの未利用材を施設園芸などで有効活用する実証事業の実施）……402万円

観光、飛鳥の振興に関する主な令和元年度当初予算  
観光文化スポーツ部●新潟・庄内DC誘客推進事業（新潟県・庄内エリアDC開催に向けた誘客推進およびPRの展開）……1,546万円  
観光文化スポーツ部●庄内空港利用レンタカー旅行商品造成事業（庄内地域のドライブモデルコース構築、レンタカー利用旅行商品造成・販売支援など）……500万円  
農林水産部●農産物など流通戦略推進事業（「食の都庄内」ブランドの普及定着、首都圏での庄内産農産物のPRなど）……344.3万円  
庄内総合支庁総務課●飛鳥活性化応援事業（島民、大学、NPO、行政などで構成する「とびしま未来協議会」のもと、活性化に向けた事業を展開）……53.7万円  
企画振興部など●飛鳥振興重点プロジェクト関連事業（「飛鳥の魅力」体験プログラムの充実強化、特産品の開発・販売拡大、漁港の津波対策の強化など）……1億6766.4万円

### 1 県政 Pick up 庄内地域のスギ材を中国に輸出する第1便が、平成31年3月下旬に酒田港を出航。

重要港湾・酒田港から、庄内地域のスギ材を中国に輸出する事業が始まっています。王子木材緑化株式会社から、中国での木材需要の高まりを受け、平成24年に日本産丸太の輸出事業を開始。新たなスギ材の産地として、資源が豊富な庄内地域に着目。酒田港からの輸量は、年間7,000～8,000㎥を予定。伐採作業は、地元企業を中心に庄内、最上地域の3社が担当します。昭和41年以降、県の本木・製材式会社が、中国での木材需要の高まりを受け、平成24年に日本産丸太の輸出事業を開始。新たなスギ材の産地として、資源が豊富な庄内地域に着目。酒田港からの輸量は、年間7,000～8,000㎥を予定。伐

### 2 県政 Pick up 格安航空会社(LCC)が、令和元年8月1日(木)から庄内空港 - 成田空港の新定期航路を運航。

格安航空会社(LCC)のジェットスター・ジャパン株式会社が、庄内空港と成田空港を結ぶ新航路を8月1日(木)から1日1往復で運航。県内の空港へのLCC就航および成田路線の開設は県内初。ジェットスター・ジャパン株式会社の東北就航も初めてです。エアバスA320型機(180人乗り)を使用し、両空港間を約1時間5分で結びます。庄内空港-成田空港の運航スケジュールは、成田空港発午後1時-庄内空港着午後2時5分、庄内空港発午後2時50分-成田空港着午後3時55分です。なお運賃は、繁忙期や閑散期などの違いで、片道税込み4,490円から22,190円の間になるとしています。

### 3 県政 Pick up 平成29年の農業産出額が、前年比50億円増の2,441億円となり、過去10年の最高額を更新。

農林水産省が公表した県の平成29年農業産出額は、2,441億円。品目別産出額はコメが最も多く、果実、野菜、豚、肉用牛と続きます。コメは米価が安定し、「つや姫」などのブランド化戦略により、前年比46億円増の850億円。新潟、北海道、秋田、茨城に次ぐ全国5位。園芸全般は、1,206億円増で微増。うちサクラ

### 4 県政 Pick up 遊佐町沿岸部約258haを、津波災害警戒区域に指定。東北では初めて全国では12番目。

県は遊佐町の沿岸部約258haを、津波防災地域づくり法に基づく津波災害警戒区域に指定しました。酒田市、鶴岡市については、早期の指定に向けて、住民説明会を予定しています。吉村美栄子知事は、「津波はいつくるか分からない。日本海沿岸地域3市町の津波に備えた避難体制の強化に、しっかりと取り組んでいく」と述べました。

